

よっしーはどうすればiPhoneを使えるのか



よっしーの身体状況

- ADLは全て介助が必要。
- 運動機能は手足の親指が僅かに動かせる程度。
- 首の筋肉が拘縮していて、自分の手元を見ることができない。
- 舌の肥大が見られ、滑舌が悪い。
- NIPPVによる24h呼吸管理をしている。

i Phoneを使うためには

- 電源スイッチを入れる動作が必要。
- ホームボタンを押す動作が必要。
- 画面が見えることが必要。
- タッチパネルを指またはスタイラスペンで触れて上下左右にスライドさせる動作が必要。

よっしーはiPhoneを使えるの

- 手が筋肉の拘縮による変形が強くiPhoneを持つことができない。
- テーブルにiPhone置いても、首の筋肉の硬縮により下を向くことができないため、画面が見えない。
- 手の親指が僅かに横方向にしか動かせないため、2軸の動きを作ることができず、電源スイッチ、ホームボタン、タッチパネルの操作ができない。

よっしーはiPhoneを使えるの

- 誰かに頼んで操作をしてもらって使うことはできるが、本人が操作方法を熟知して、介助者にわかりやすく説明できることが必要。
- iPhoneを本人の顔の高さに固定しスタイラスペンを工夫して、電動車椅子に固定する。首が殆ど動かさないが電動車椅子を動かして操作ができる？

どうしたらよっしーは iPhone を使えるのか

- ワンキーマウスのように、スイッチを押すたびにカーソルの移動方向が変わり、短点と長点の押分で決定などができる機能があると良い。
- Bluetoothを利用することができるので、本体の改良をしなくてもスイッチをつなげる部分をオプションとして製品化することが可能？



どうしたらよっしーは iPhone を使えるのか

- 新機種のiPhone3GSには音声コントロール機能があるので、ハンズフリーで電話をすることができる。また音楽を聴くときにもこの機能を使って、聴くことができる。
- 将来、音声コントロールで操作できる標準アプリケーションが増えると、介助の手を必要とせずに活用できる。

